

関連学会印象記

アメリカ麻酔学会 (ASA)

島 山 登*

2010 American Society of Anesthesiologists (ASA) Annual Meeting は10月16日(土)から10月20日(水)までの会期で、カリフォルニア州サンディエゴにて開催されました。サンディエゴはロサンゼルスよりおよそ車で3時間、およそ200キロ南に位置し、メキシコに国境を接しています。私自身、何度もロサンゼルスから海岸線を車で南下してサンディエゴを訪問したことがあります。いつも気持ちのいいドライブだったと記憶しています。また、非常に温暖な気候で一年を通して過ごしやすいくとも特徴として挙げられます。しかし今回、会期の前日に到着したところ雨で非常に肌寒く、買い物をした店でも“昨日までは暖かったのね”みたいな会話をしていたのですが、

会期中ずっと不順な天候が続き、ようやく最終日になって普段のサンディエゴらしい気候となったので、ほっとしたのですが今回参加されたみなさんの中にはちょっと期待はずれでがっかりされた方もいらっしゃるのではないかと思います。

学会は San Diego Convention Center で行われました(写真1)。参加する毎に感じるのですが米国の会議施設はどこも非常に大きく、会場内を移動するだけでも結構な距離を歩いていることになり。今回も(!)多少食べ過ぎになったのですが、帰国後、体重が1Kgほど減っていてびっくりしました(その後、また戻ってしまいました)。

今年もASA Annual Meetingの方針に大きな変更がありました。一つは会費制が導入されたこと、



写真1

*富山大学附属病院手術部

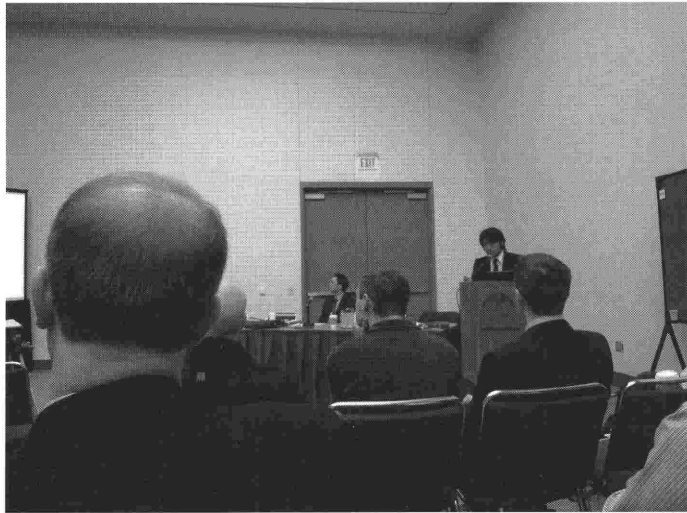


写真2

もう一つはこれまでチケット制で、有料であったリフレッシュャーコースが無料になったことです。毎年、事前登録でチケットを購入する必要がなくなったことと、色々な予定変更に対応できるようになることで歓迎できることと思いました。また、welcome reception が大リーグ球団のひとつ、サンディエゴパドレスのホームグラウンドである PETCO Park で行われたこと、また Opening Session として 2009 年 1 月に発生した U.S. Airways 1549 便の事故、いわゆる“ハドソン川の奇跡”の副操縦士であった Jeff Skiles 氏の講演が行われるなど、華やかな演出が行われたことも今回の特徴であったと思われます。また昨年までの本学会と比較して、今年は全体的にテーマ・セッション数が集約されていて、プログラム上の表記もしっかりしていたので計画を立てて参加しやすい環境になったのではないかと感じました。さらに今年は、“Celebration of Advances in Pain Treatment”というセッションが新たに登場し、新たな分野、specialty としての麻酔科医による痛みの治療への関与が今後広がってくるのではないかと言うことを予感させられました。

今回、私共の教室で大学院生をしている青木優太先生が“Sepsis-induced modulation of ion channels and the role of protein nitrosylation in atrial myocytes”というタイトルで Best of abstracts に選ばれ、oral presentation を行いました。私も共同演者として会場に行ったところ、セッションで使用するコ

ンピュータが到着していない状態で、発表ファイルのインストールが直前までできず、ちょっとヒヤッとしましたが、大変なごやかな雰囲気の中セッションは行われました(写真2)。この中の話としては、応募演題数が最も多いのは米国でおよそ全体の半分、次が日本で、その次が中国、イギリス、フランスと続いているとの紹介があり、日本からの演題数が多いことをちょっとうれしく感じました。非常に多数の参加者で討論も活発に行われ、ほかの演題も含め非常に楽しく過ごすことができました。またポスタープレゼンテーションも最終日まで数多くのセッションが行われました。ポスターの掲示スペースはおよそ幅 180 センチで高さも 120 センチあり、周りに参加者が集まってもゆとりを持って討論ができます。日本の学会は会場の関係もあり縦長のフォーマットとなりますので、参加者が多い場合なかなか討論を共有しにくいことがあります。さらに、一般的に口演の場合質問時間に制限があるため、じっくりと討論を行うことが難しくなるのですが、ポスターですと時間にゆとりがあるため、お互い納得がいくまで討論できるという点で私はポスターセッションも楽しんでいきます。また、米国・日本を問わず、知り合いや同じ分野で研究をしている人が集まってくるので、ネットワーキングを広げることができるというチャンスでもあります。しかし、各セッションにおいて少なくとも数演題は、ポスターの掲示がなかったり、またポスターは貼付されていても発

表者がいなかったり(いわゆる貼り逃げ)ということがあり、残念に思いました。各ポスターセッションには2名、moderatorがついているのですが、これも進行の仕方が様々で、時間内に回りきれなかったりすることがあるので、これらの問題について今後、検討するべきではないかと思いました。また、若い先生方の海外学会デビューのチャンスとしてこのポスターセッションは、その分野の第一人者が集まってきて、しかもポスターがあるので言語的にも負担が軽くなるということで大変有用ではないかと思えます。

ASAが開催される都市では、学会以外にも観光などでちょっと息抜きができるスポットが沢山あります。サンディエゴでは、風情のあるガスラン

プが灯るガスランプクォーターでの食事や買い物、また海軍航空博物館として空母ミッドウェイへの乗船など多くの先生方が訪問されたことと思えます。今回の会期中、会場周辺やガスランプクォーター内で企業広告を付けたセグウェイが走り回っていたり、ASA 歓迎のサインがあちこちで見られたりと楽しい雰囲気を感じ取ることができました。臨床や研究・教育など日頃、様々な業務に追われてなかなか余裕が持てないことが多いかと思えますが、このような学会へ参加することで、知識と気分をリフレッシュすると、帰国してから「また頑張ろう」という気持ちになり、モチベーションも復活してくるので、可能な限りこれからも毎年参加したいと思えます。